



柏市消費者教育推進連絡会つうしん No.32



令和5年度第2回柏市消費者教育推進連絡会を開催

日 時：2月28日（水）15:30～16:45 場所：柏市役所沼南庁舎501会議室

参加者：連絡会委員8名、事務局4名 内容：消費者教育授業の実践報告について

★消費者教育授業実践報告★

【小学校】

田中北小学校 難波 先生

授業名：こんなときどうする？

学年：6年生 教科等：家庭科（道徳）



消費者教育を言葉として教え込むのではなく、身近な素材として、友達や先生と意見交換することを通し、意思決定することの難しさや大切さに気付かせることをねらいとした。消費者教育を通して児童が複数の情報を比較し、葛藤しながら意思決定するという経験ができた。

酒井根小学校 中川 先生

授業名：こんだてを工夫して

学年：6年生 教科等：家庭科

栄養を考えた食事について、課題をもって1食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、栄養バランスを考えた1食分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとした。給食を作る側と食べる側の両方の立場になって思考を働かせることができた。

十余二小学校 矢野 先生

授業名：未来をイメージしてみよう。

学年：6年生 教科等：家庭科・キャリア学習

身近な例を提示しながら、未来の自分を消費者の視点で考え、具体的な将来の姿をイメージする力を養うことをねらいとした。生活する際にかかる支出の感覚を現実的に考えることや、それに伴った仕事を考えるきっかけとなった。

柏の葉小学校 池田 先生

授業名：よく見て考えよう

学年：ひまわり・なのはな学級6年生 教科等：自立活動

賢い消費者として生きていく将来を見据えて、「よく見ることは大切」・「いろいろな見方がある」・「見てすぐ判断せずによく考える」ことを意識できるようになることをねらいとした。消費者として考えるべきことや注意しなければならないことを学習を通して感じてもらった。

【中学校】

逆井中学校 井口 先生

授業名：社会科 公民的分野 第4章 1節 消費生活と経済

学年：3年生 教科等：社会科（公民的分野）

消費生活と経済のかかわりについて理解させるとともに、自立した消費者であるためにはどうすべきか考察し、主体的に社会に関わろうとする態度を育成することをねらいとした。消費者に保障されている権利や果たすべき責任について理解し、トラブルの対応法について考察することができた。

松葉中学校 鈴木 先生

授業名：第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と市場経済

学年：3年生 教科等：社会科（公民的分野）

自分の欲しいものの契約と消費において起こりうるトラブルを想定し、その対処法を考察、表現することをねらいとした。消費者に関する法令や制度に触れながら、購入したいものについてまとめ、説明する生徒もいたことより、自立した消費者になるという自覚が見られた。



豊四季中学校 安藤 先生

授業名：3編4章-地域の在り方

学年：2年生 教科等：東京書籍「新しい社会」

SDGsの視点を持ち、「柏市民」として、1人の「消費者」として、地域課題を解決しようとする主体的な態度を育むことをねらいとした。世界規模の課題であるプラスチック利用（SDGs）について、自分事として捉え、実生活に反映させようとする態度が見られた。

風早中学校 山口 先生

授業名：自然災害と防災・減災への取り組み

学年：2年生 教科等：社会科（地理）

国や地方公共団体が防災・減災対策に努めていることを理解し、移住する際にどんな情報を得てどんな点に注意し、選定を行う必要があるかを理解することをねらいとした。各自治体が防災・減災対策に努めていることを情報収集により理解し、自らの考えを発信することができた。

【高等学校】

市立柏高等学校 戸邊 先生

授業名：情報社会における法と個人の責任

学年：3年生 教科等：社会と情報

個人情報の重要性を理解し、インターネットの利用におけるリスク・倫理的な問題についてや消費者としての権利と責任について学び、情報の分析・判断する能力を身に付けることをねらいとした。本単元は、個人情報の重要性やインターネット上での行動に責任を持つための基盤を築く一環となった。

東葛飾高等学校 富永 先生

授業名：食生活をつくる

学年：2年生 教科等：家庭科

フードファディズムにとらわれず、食品の安全性・情報の正確性の観点を強く意識し、日々の食事の選択等の場面で、安全かつより豊かに自分らしい食生活を送ることができるようにすることをねらいとした。本単元より批判的な思考力や物事を多角的に捉える視点が身につく、きっかけとなってくれることを期待したい。

教職員課 和田 氏 より

学習のスパイラルが見えた会になった。小・中・高で連携して、学びについて意見交換する場は貴重。柏市の学びの中でも重要な位置づけだと思っている。先生方は今回の授業実践で授業展開の四則計算を獲得したと思う。こども達もウェルビーイングに繋がったと思っている。

指導課 森谷 指導主事 より

今回の授業実践でこども達が自分で「自己決定」「自己選択」できることに繋がったと思う。先生方から子供達が学び、学びを受けた子ども達が発信、拡大をしていく。それを受けた多くの子供達が、といったように、次から次へ未来へ繋がっていく。ここをスタートにしていきたい。

指導課 中田 課長 より

目的意識を明確化（意図やねらい）するのは、「〇〇教育」に限らず、全ての教育・授業に繋がる部分であると感じた。消費者教育は実生活に繋がる学びであると考えており、段階を追うごとに進級後の学校生活へ、社会生活へ繋がっていく学びであると考えている。

自校・他校の先生方に消費者教育を広めるには…というテーマで話し合いをしました！

- ・教科部会で共有したいと考えた。教科で広げることが大切。
- ・単元の選定から、他教科と繋がりやすいものを選定する。（例：SDGs等）
- ・授業指導案を自校の全職員に渡す。



各学校の先生方が実践した消費者教育授業の詳細につきましては、消費者教育ポータルサイトに掲載を予定しております。詳しくは下記 URL か右側から御参照ください。

<https://kashiwa.ed.jp/scenter/>

2年間活動いただいた委員の皆様、御協力いただきまして、誠にありがとうございました。

